GINGA REPORT 401

No.82
2022.03

そらんぽ四日市 検索

発行日：令和４年３月１日
編集＆発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

３月の星空

星図：ステラナビゲータ９/(株)アストロアーツ

北斗七星

春らしい暖かな日が増えてくると、北東の空から昇ってくる北斗七星の存在感も増してきます。おおぐま座のしっぽのあたりを表した星並びです。

北斗七星はひしゃくの形ですが、その先を伸ばしていくと見つかるのが北極星で、こぐま座のしっぽの先にあたります。空の星たちは、このあたりを中心として、ぐるぐると回っているように見えます。

親子の動物の星座たち

この時期には、おおぐま座とこぐま座の他にも、親子のように仲良く輝く星座たちがいます。

春の星座の代表、しし座の上には、小さなこじし座が乗っかっています。既成の星座たちの間に比較的新しく作られた星座であるため、明るい星がなく、探すのは大変です。

西の空へと移っていく冬の星座たちの中でも、遅くまで見られるのがこいぬ座です。おおいぬ座はもう既に沈もうとしていますが、こいぬ座はまだ遊び足りないのか、名残惜しそうに西の空で輝いています。

3月15日21時の星図

おおぐま座とこぐま座

この時期見られる親子のように見える動物の星座のうち、神話の中で本当の親子であるのは、おおぐま座とこぐま座だけです。そして、この親子には切ないお話が残っています。

ある日カリストと呼ばれる妖精が、大神ゼウスの目に留まり、ゼウスの子を産みました。しかし、カリストは月と狩りの女神アルテミスに仕えていたため、潔癖なアルテミスがカリストの行為をとがめ、その姿を大きなくまに変えてしまいました。

その後、カリストの息子アルカスは一人前の狩人に成長しました。そしてアルカスは森の中で一匹のおおぐまに出会います。そのおおぐまこそ母親であるカリストでした。カリストは懐かしさのあまり我を忘れて息子にかけよりますが、アルカスはそんなおおぐまを見て弓をひこうとします。

この様子を見ていたゼウスは驚き、二人を天に上げて星座にしてしまいました。今では、仲良く北の空で追いかけっこをしているように見えます。

今月の天文トピック

春の二重星を探せ！

©県立ぐんま天文台
左がミザール、右がアルコル

おおぐま座のしっぽの先から一つ手前の星であるミザールのすぐ近くに、アルコルという星があります。アルコルは「かすかなもの」という意味で、等級も4等とかなり暗い星です。

アルコルは明るく目立つ星ではないながらも、ミザールのすぐそばで輝くことから様々な呼び名で呼ばれてきました。四十歳を過ぎると見えづらくなることから「四十ぐれ」、正月にこの星が見られないと寿命がくるということから「寿命星」など。ミザールときちんと分離して見えるかどうかが重要視されており、実際に兵士の視力検査にも使われていたようです。

そんなアルコルですが、天文学ではミザールと合わせて「二重星」と呼ばれます。二重星とは、空で非常に近くに見える2つの星のことです。ただし二重星には、距離の大きく異なる2つの星がたまたま同じ方向に見えているだけの「見かけの二重星」と、実際にお互いの周りを回っている「実視連星」があります。ミザールとアルコルは、そのどちらであるのか、未だに結論が出ていない星です。古くから多くの人に探されてきた星でありながらも、わかっていないことがたくさんあるんですね。

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

場所：博物館前市民公園

◇３月２０日（日）１０：００～１２：００
「太陽と金星を見よう」

◇３月２６日（土）１９：３０～２１：００
「星雲・星団を見よう」

※当日受付・参加無料です。
※天候不良時は中止です。（通常3時間前に決定します）
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

編集後記

おそらく最も有名な二重星は、夏の空に見られるアルビレオでしょうか。はくちょう座のくちばしに輝く星で、「銀河鉄道の夜」では、二つの星の輝きをサファイアとトパーズにたとえました。

実はこのアルビレオも、2018年になって、見かけの二重星であると結論付けられた星です。最新の天文学によって見えているものが少しずつ、わかってきています。

３月の月

３日		新月
10日		上弦
18日		満月
25日		下弦